

2021年2月25日

DX 実現を加速させる「Smart Data Platform」のメニュー体系刷新

NTT コミュニケーションズ株式会社(以下 NTT Com) は、デジタルトランスフォーメーション (DX) の更なる推進に向け、「Smart Data Platform^{※1}(以下 SDPF)」を構成するデータ利活用に有効なサービス群を、「SDPF」のメニューとしてラインナップします。それに合わせ、ポータルサイトの導線などユーザーインターフェースを見直し、「SDPF」の利便性をこれまで以上に向上させます。

データ利活用により、お客さまの DX や社会的課題の解決を支援することで、Smart World 実現に貢献していきます。

1.背景

スマートデバイスや IoT の発達でさまざまなデータが取得可能となったことなどを背景に、NTT Com ではデータ利活用による DX を推進しています。データ利活用にはデータを収集するためのネットワークや、収集したデータを蓄積するストレージなど、複数の機能が必要です。「SDPF」は ICT インフラも含め必要な機能を一元的に提供することが特長の 1 つであり、継続した機能拡充により、お客さまのニーズに応えてきました。

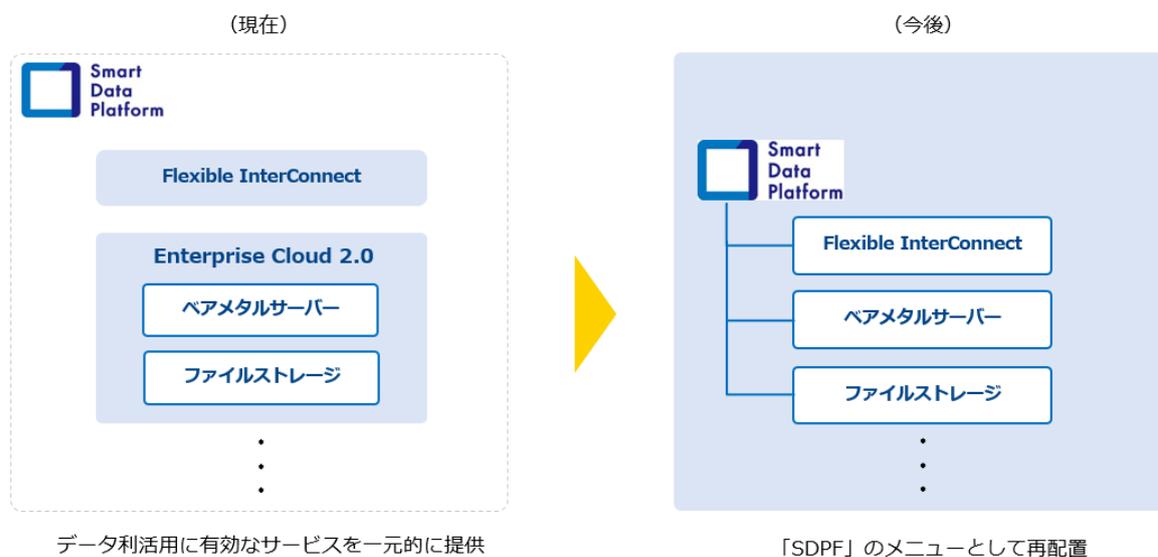
今回、「SDPF」のメニュー体系を刷新することと、それに合わせてポータルサイトの導線見直しなどのユーザーインターフェースを改善することで、より分かりやすく、これまで以上に使いやすい「SDPF」を提供し、データ利活用の更なる推進に貢献します。

2.概要

(1) 「SDPF」のメニュー体系刷新

データ利活用に有効なサービス群を「SDPF」配下のメニューとしてラインナップします^{※2}。なお対象となるサービスは、「Enterprise Cloud 2.0」「Flexible InterConnect」「Super OCN Flexible Connect」「Distributed Secure Internet Gateway」「IoT Connect Mobile[®] Type S」「Professional Support Services」の 6 つ^{※3}で、順次拡大します。

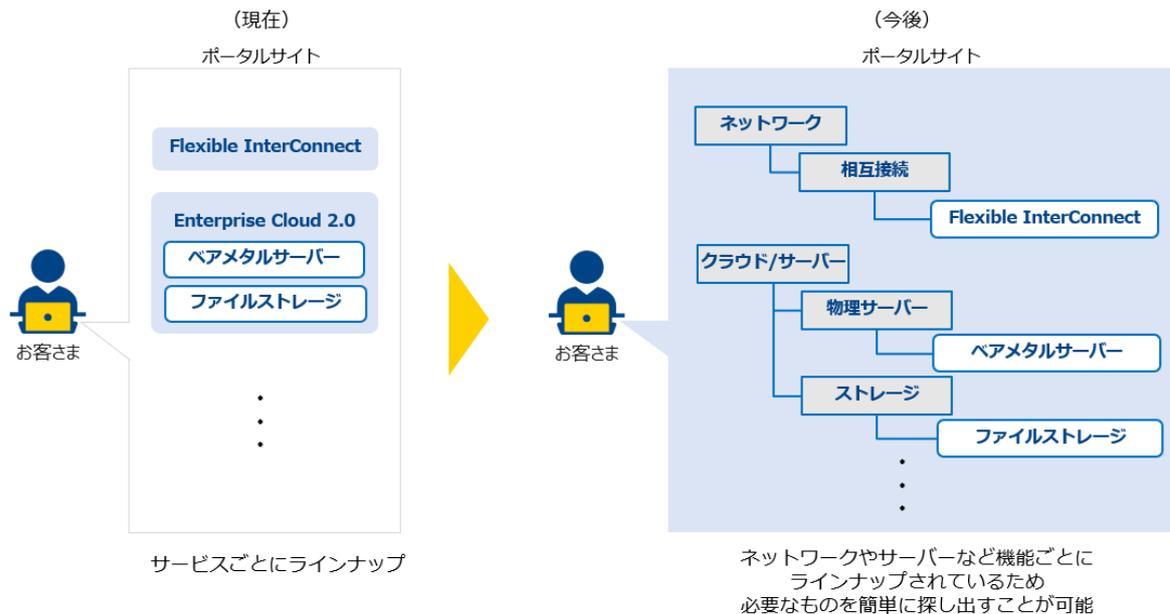
< 「SDPF」のメニュー体系イメージ >



(2)「SDPF」の利便性を高めるためのユーザーインターフェース見直し

刷新したメニュー体系に合わせ、ポータルサイトのユーザー導線を再設計するなどユーザーインターフェースの見直しを行います。これにより、お客さま自身が必要となるものをすぐに探し出せ、やりたいことを簡単に実現できます。

<ポータルサイトでのメニュー検索イメージ>



3.実施時期

2021年5月下旬より順次実施

4.今後の展開

データ利活用におけるお客さまの更なる利便性向上のために、「SDPF」におけるデータの分析や蓄積に関わるメニューの更なる拡充に加え、キャリアとしての強みである多様なアクセスラインを活かしたデータ収集に関わるメニューを拡充していきます。NTT Comは、事業ビジョン「Re-connect X」※4にもとづき、「SDPF」を中核としたデータ利活用を通じ、お客さまのDXを加速していきます。

※1：データ利活用に必要な収集・蓄積・管理分析におけるすべての機能を、ICTインフラも含めてワンストップで提供し、データ利活用によるDX実現を加速させるプラットフォームです。詳しくは下記Webサイトをご覧ください。



<https://www.ntt.com/business/sdpf/>

※2：複数の機能を提供する「Enterprise Cloud 2.0」はベアメタルサーバーやファイルストレージなど機能別に「SDPF」のメニューとしてラインナップされます。

※3：2021年2月25日時点の対象サービスとなります。

※4：NTT Comは、事業ビジョン「Re-connect X」にもとづき、生活者・ビジネス・社会を、安心・安全

かつ柔軟に「新たな価値でつなぎなおす」ICT サービス・ソリューションを提供し、ニューノーマルの世界における持続可能な未来の実現に貢献していきます。

Re-connectX

<https://www.ntt.com/about-us/re-connectx.html>